



社内勉強会で思考力・想像力・表現力・ 理解力・コミュニケーション力UP！



第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

「とらいあんぐる磐田」会員の皆様こんにちは！

第一商事株式会社の清水聖也(しみず せいや)と申します。

弊社は、磐田・袋井を中心にENEOSマークのガソリンスタンドやecoランドリー(コインランドリー)の運営、LPガスや重油、灯油といったエネルギーの販売など、地元・中遠地区に暮らす皆様の豊かで快適なカーライフや暮らしをサポートするエネルギー会社です。この度、ひょんなことからこの「とらいあんぐる磐田」の紙面に寄稿することになりました。拙筆な私ではありますが、少しでも会員の皆様のお役に立てればと、弊社の取り組みをご紹介しますと思っています。1年間どうぞお付き合いください。

弊社では、「なくてはならない会社」であり続けるというミッション(使命)のもと、「第一」に選ばれる会社「働きたい、働き続けたい会社」というビジョン(未来像)を掲げ、その実現のために一人ひとりがバリュー(行動指針)を実践することを目指しています。つまり、会社が目指す目的と大切にしている価値観を明確にし、全員で共有浸透して、その実現を追求する“理念経営”です。そのために、社内に活気が溢れ、皆のモチベーションを高めるエンゲージメント(働きがい)の向上を図っています。

【エンゲージメントを高める主な要素】

- 会社の理念への共感・信頼
- 挑戦・協力などの組織風土
- 職務へのやりがい
- 自己成長



■共有会

「理念と経営」という雑誌を使い、部門も役職も年齢も超えて、1つのテーマに向き合いディスカッションする勉強会が『共有会』です。毎月開催しており、参加人数は10名ほど。毎月できるだけ違うメンバーになるよう、部門間のバランス等を考慮しながら私がランダムに人選しています。選出された人は「理念と経営」を読み、あらかじめ準備された設問に対して自分の考えをまとめてから参加します。当日は、意見を出しやすい雰囲気を作るためにメンバーを2つのグループに分けます。その後、設問に対して順番に自分の考えを述べてから質疑応答を行います。普段はなかなか接点がなくても、1つのテーマに向き合うことで話のきっかけができ、同じ会社で働く仲間として共通する想いがあることに気付くと、より会話も活発になっていきます。堅苦しい場になりがちですが、場の雰囲気はざっくばらんで笑い声も。全員の発表が終わったところでメンバーを数人入れ替え、全員の意見が共有できるようにします。

互いの考え方を聞くことで相手を知り、リスペクトする気持ちが芽生えてきます。また、雑誌に掲載されている企業の事例や様々な経営者の体験談に触れることで、視野が広がっていきます。それによって自社の強みなどを再認識でき、仕事の目標や指針を自ら考え、行動する力がつく機会となっています。そして何より、私自身の考えや想いを皆に伝える貴重な場となっているのです。





委員会活動で自ら考えて行動できる “自立自走” 組織を目指す！



第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

前回に引き続き、“理念経営” 実現のためにエンゲージメント（働きがい）を高める弊社の取り組みをご紹介します。

■委員会制度

図書委員会や給食委員会、放送委員会など、皆さんの小中学生時代にもありましたよね！？ その会社版です。現在弊社には、以下の3つの委員会があります。

- ① 感謝祭実行委員会 ② コミュニケーション委員会 ③ 理念浸透委員会

『委員会制度』を取り入れている目的としては、従業員全員が当事者意識を持ち、自ら考え、自ら行動できる“自立自走”の組織を目指しているからです。社内で様々な場面を経験し、それぞれの役割を果たすことで組織が成り立っていることを実感する。その積み重ねが、互いに協力し貢献し合うことに繋がります。委員会活動を経験することで、一人ひとりが会社の運営に携わる意識を持つようになるのです。任期は1年で、メンバーは6名。部門間のバランス等を考慮して私が人選しています。

①感謝祭実行委員会

お客様に日頃のご愛顧に対する感謝の気持ちを込めて年1回開催する「大感謝祭」。このイベントの企画から運営までを行うのが『感謝祭実行委員会』です。「大感謝祭」では、ガス器具や特選中古車・タイヤなど、弊社が取り扱う商品を特別価格で展示販売します。ただ、それだけではなく私たちが、住まいやクルマといった生活に密着した事業を展開している会社であることを知っていただく場でもあるのです。そのために、会場は社屋を利用することにこだわって開催しています。また、空くじなしの大抽選会や千本釣りなど、ご家族で楽しめる催しを実施し、毎年多くの笑顔があふれるイベントになっています。実際、従業員からは「大感謝祭」を通してお客様との距離がより近くなっていることを実感する声も多く聞かれますし、お客様の笑顔がモチベーションアップにもつながっているようです。



②コミュニケーション委員会

文字通り、社内のコミュニケーション活性化を目的にイベントを企画・運営するのが『コミュニケーション委員会』です。忘年会や2年に1回実施される社員旅行といった恒例行事はもちろん、これまでソフトボール大会やボウリング大会、納涼会やバーベキューなど、様々なイベントがこの委員会によって企画されてきました。任期の1年間にどんなイベントを実施するかはメンバーの考え次第。どうしたらみんな楽しんでくれるか、たくさんの方が参加してくれるかを考えながら企画します。

コミュニケーションを深める第一歩は、共通の話題や楽しさに共感することから始まると考えます。弊社は店舗運営していることもあり、それぞれの職場が離れていて、普段従業員同士の接点が少ないというのが課題です。こうしたイベントをきっかけに従業員同士のコミュニケーションが活発になり、信頼関係や団結力の高まりへとつながっていく。そこからさらに、お客様へのサービス向上へと結びついていくことを期待しています。

紙面が尽きましたので、③理念浸透委員会 については次回ご紹介いたします！





“ありがとう”がキーワード。 表彰式で理念を浸透！



第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

前回に引き続き、“理念経営”実現のためにエンゲージメント（働きがい）を高める弊社の取り組みをご紹介します。今回は前号でご紹介した『委員会制度』の続きからです。

③理念浸透委員会

社内に理念を浸透させる仕組みの1つに「理念物語」という制度があります。この「理念物語」の運営を行うのが『理念浸透委員会』です。弊社の従業員は毎月1人1枚以上、共に働く仲間への感謝の気持ちや、尊敬するところを記入するエピソードカードを提出することになっています。その中から選りすぐりのエピソードを委員会が選出し、社員間投票で“理念物語大賞”を決定するのです。大賞に選ばれたエピソードは映像化され、表彰式（後述）で上映・表彰されます。

最初は義務感があつたエピソードカードの提出ですが、今では全員が提出してくれています。「ありがとう」や「すごいね!」を文字にすることで、普段照れくさくて言いづらいことも相手に伝わりますし、日ごろから仲間の良いところを見つけようとする習慣が身に付きます。さらには、映像というカタチとして残し、皆で共有していくことで、会社が大切にしたいことが語り継がれていきます。つまりそれが、企業理念の浸透につながるのではないかと考えます。

ちなみに、映像化されたエピソードはオフィシャルホームページからご覧いただくことができます。ぜひチェックしてみてくださいね。



■“ありがとう” Award

毎年、会社が設立された6月に開催される表彰式が『“ありがとう” Award』です。私や役員がホストとなって、従業員をおもてなしするイベントとして位置付けています。内容としては3部構成となっており、まず第1部で各部門から事業計画を発表・共有し、事業計画達成に向けて決意新たにベクトルを合わせます。その後、第2部では表彰式が行われます。カテゴリーは永年勤続、優秀社員、理念物語大賞の3つ。永年勤続者は5年ごとに表彰対象となり、優秀社員は社員、パート・アルバイトを問わず、この1年の営業成績や勤務態度、接客に対する姿勢などを吟味し、受賞者を選出します。また、理念物語大賞では再現VTRが上映され、感動に涙する場面もあります。そして第3部では、和やかな雰囲気のもと懇親パーティが行われます。毎年、芸人さんなどサプライズゲストを呼んで、皆さんに楽しんでいただくことを考えています。

『“ありがとう” Award』は「感謝」「勤労」「承認」がキーワードになっています。今こうして弊社があるのも、お客様、お取引先様、地域の皆様、OB・OGの皆様、そして共に働く仲間とそこにご家族といった、私たちに関わるすべての方々のお陰です。そんな方々に対して想いを馳せながら「感謝」をする。そして、永きに渡って「勤労」いただいた方に報いる。日頃、頑張ってくれている従業員に対して「承認」する。それが、エンゲージメント（働きがい）につながるのではないかと考えます。





クレンリネスで 女性が行きたくなるお店づくりを！



第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

前回に引き続き、“理念経営”実現のためにエンゲージメント(働きがい)を高める弊社の取り組みをご紹介します。

■DSスパークル

弊社は不特定多数のお客様が利用するサービスステーションやコインランドリーを運営しているため、クレンリネス(美しく衛生的な環境を継続的に維持すること)に力を入れています。その職場環境をチェックして回るのが『DSスパークル』です。店舗の美化に対する意識の向上と、気持ちよく働ける職場づくりを目指すために始めました。



各職場から選出された審査員が4名ずつ3班に分かれ、サービスステーションとコインランドリーの全店舗を回り、店舗の清掃状況からスタッフの身だしなみまで、お客様目線で客観的にチェックしていきます。すべての店舗を回った後は、ランチをしながら意見交換です。『DSスパークル』は年に2回開催され、そのうち1回は“女子改”といって審査員すべてが女性。特に“女子改”では、男性では気付かないような細やかな点が指摘されることも多く、店舗の改善につながっています。女性の評価が高い店舗は人気店の条件であることは今や常識。女性が行きたくなるお店を目指すために、“女子改”が果たす役割は大きいと言えます。参加者たちは他店の取り組みを見て刺激を受けたり、スタッフと交流することでモチベーションアップにもつながり、良いスパイラルが生まれています。

■社長とランチ

月に1度、私と従業員3~4名で開かれる『社長とランチ』。ただ、ご飯を食べに行くだけなのですが、実は様々な効果があるのです。

メンバーの選考は「コミュニケーション委員会」が行い、店舗や部署が極力被らないように選出しています。1年に1回参加できるルーティンになっており、「いろんな人と出会えて、楽しく美味しいものが食べられるご褒美ランチ。とても楽しいイベント」と、女性従業員を中心に好評です。大きな目的は、役職・職場・就業形態の垣根を超え、仕事を忘れて食事と会話を楽しむこと。リラックスした雰囲気なので、職場だけでは見えない人柄を知ることができ、プライベートの共通項が見つかって話が盛り上がることも多くあります。お店選びは参加者の中からリーダーに指名された者が担当し、弊社のLPガスやサービスステーションのお客様のお店を利用します。参加者の顔ぶれなどを考慮しながら段取りを経験することで、リーダーシップ力を培う場にもなっています。



■活力朝礼(本社)

事務的な連絡だけだった朝礼をもっと意義のあるものにしたい、そう思って取り組んだのが『活力朝礼』です。週1回だったものを毎日にし、「職場の教養」という冊子を朗読して感想を話すというテーマを追加しました。担当は毎日替わり、輪番で回していきます。



「職場の教養」にはエピソードが1日1話掲載されているのですが、どれもよくある日常での出来事や当たり前の言葉です。ただ『活力朝礼』の目的は、この日常でよくあることやよく聞く言葉が当たり前ではないことに気付くこと。対峙した物事に対して自分の考えをまとめ、発信する力を付けること。それぞれ違う感性を持った人の言葉を受け止めることで視野を広げること。つまりそれらはすべて、従業員の自立心や向上心を養う糧になり、成長への種まきではないかと考えます。



地域貢献で地元へ恩返し！



第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

明けましておめでとうございます！

前回に引き続き、「理念経営」実現のためにエンゲージメント(働きがい)を高める弊社の取り組みをご紹介します。今回のテーマは「地域貢献」です。現在弊社は会社設立から59年を数え、長きにわたって磐田・袋井で事業をさせていただいております。今こうして当社があるのも、地域の皆様のお陰、そして地域との関わりがあつてこそ。そんな地元に対して恩返しをしたいという想いから、地域貢献活動を続けております。

■美化活動

弊社は月に1回、役職者が集まる「役職者会」という会議を実施しています。そこで、何か地域へ恩返しできないか?という声が上がリスタートしたのが、会社の周辺道路のゴミ拾いをする『美化活動』です。磐田市には「まち美化パートナー」という制度があります。この制度は、市の道路などの公共スペースを子供に見立て、希望者が親代わり、つまり里親となって美化活動をするというものです。弊社ではその制度に参画し、月に1回『美化活動』を行っているのです。



この活動を始めたことで、当然のことながら会社の周辺がキレイになり、清々しい気持ちが生れました。お客様から「見たよ」と言って声を掛けていただくことも増えたように感じます。そして、社内でも自主的に参加する従業員が増えましたし、活動を共にすることでコミュニケーションも深まっているようです。小さくて地道な活動ですが、社風の源になっていくことを実感しています。

■地域の防犯・見守り活動

弊社の事業の1つに、LPガスの供給があります。LPガスは、検針をするために月に1度必ずお客様のお宅を訪問します。しかもガスメーターは家の裏手に設置されていることが多く、定期的に人が立ち入ることで防犯につながるのではないかと、一人暮らしのお年寄りの安否確認もできるのではないかと考えました。また、通学路沿いに位置するサービスステーションでは、子供たちの身を守る「かけこみ110番」の場所にもなり得ます。そんなことから弊社は、平成26年に磐田警察署管内防犯協会と「IWATA 絆 NETWORK」と呼ばれる犯罪の起きにくい社会づくりの覚書を締結いたしました。



当たり前のように行っている通常業務が、実は犯罪を未然に防いだり、お年寄りや子供たちを見守ることにつながっていることを全従業員が意識できたとき、地域に貢献しているという実感が生まれ、それが働きがいにつながるのではないかと考えます。

■地方創生私募債

令和2年3月に、私の母校でありPTA会長を務めたというご縁から磐田市立南部中学校にノンスリップグレーチング(滑り止め付き溝ふた)を寄贈させていただきました。これは、『地方創生私募債』を利用したもので、私募債発行額の0.2%相当額の物品を指定した学校などの教育機関に寄贈できるという仕組みになっています。雨天時に自転車通学の生徒が既設のグレーチングで滑って転倒したというお話を伺ったことがきっかけでした。



これを機に、生徒の皆さんや従業員が地域貢献に興味を持ってもらえたらうれしく思いますし、企業の果たすべき目的は利益を上げるだけでなく、地域との共存ということに気付いてくれればと思います。



地域貢献で地元へ恩返し！ Part 2

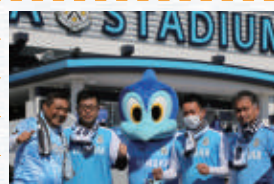


第一商事株式会社 代表取締役社長 清水聖也

この寄稿も今回が最終回となります。これまで同様、「理念経営」実現のためのエンゲージメント(働きがい)を高める弊社の取り組みをご紹介します。今回のテーマは、前回に引き続き「地域貢献」です。

■ジュビロ磐田シーズンシート

福利厚生の一環としてジュビロ磐田のシーズンシートを購入し、社員に観戦チケットを配布しています。私たち磐田市民にとってジュビロ磐田はとても身近な存在ですが、よく考えてみると、地元をホームタウンとするプロスポーツチームがあり、気軽に応援へ行ける環境はとても恵まれていることに気がきます。スタジアムで臨場感あふれる試合を観てチームのファンになる。選手たちが地元のお店を利用したり、気さくに地元の人たちと触れ合う。それによって、今度は選手個人を応援する気持ちが生まれ、さらに試合を観に行くようになる。その逆もあるでしょう。そうやってファンが増えて盛り上がっていく上昇スパイラルは、応援することで地域貢献できる証でもあります。弊社が取り組んでいる地域貢献の在り方と、ジュビロ磐田の試合観戦を結び付けて考えられるようになる社員が増えてくれればうれしいですね。



■スポンサー契約

現在弊社では、磐田市に住む3人の“地元の逸材”をサポートしています。

まず1人目は、2024年パリオリンピックを目指すBMXフリースタイルライダー・密岡奏夫(みつおか そお)選手です。密岡くんは磐田市生まれ・在住の中学2年生。小学1年で競技をはじめ、初めて出場したキッズクラスで優勝。その後、2017年BMXフリースタイル世界大会(ジュニア)で準優勝、2019年の同アマチュアクラス(一般)で5位入賞の快挙を果たした逸材です。現在は、自宅にある練習設備や全国のパークでレベルアップを図り、パリオリンピックを目指しています。



2人目は、日本最高峰スーパーフォーミュラのドライバーを目指すカートレーサー・佐藤充希(さとう みつき)選手。佐藤くんも磐田市生まれ・在住の小学6年生。小学1年からカートを習い始め、小学3年の時にSL石野カートMシリーズ第4戦でレース初参戦。その後も石野サーキットに通いながら実力をつけ、数々のカートレースに参戦。プロドライバーへの登竜門、SLカートミーティング全国大会2019に出場するなど、これからの飛躍が楽しみなカートレーサーです。



3人目は、トランポリン競技でパリオリンピック出場、メダル獲得を目指す谷口遼平(たにぐち りょうへい)選手。谷口くんは浜松市出身・磐田市在住の25歳。5歳でトランポリンを始め、高校3年でインターハイ準優勝。大学4年時には、主将として全日本学生トランポリン競技選手権大会の団体戦・大学対抗戦で静岡産業大学を優勝へと導き、全日本選手権では個人で2位入賞、初の日本代表入りを果たします。その後も着実に実績を積み重ね、現在も日本最高難度点の記録を保持しています。現在は磐田市内に「たにぐちりょうへいトランポリンクラブ」を設立し、コーチ業のかたわら日々技を磨いています。



彼らとスポンサー契約を結んだ背景には、長きにわたって事業をさせていただいている地元に対して恩返しをしたいという想いがありました。地元の期待の星をサポートすることで彼らが活動する土壌が整い、それが活躍につながれば地域に元気が出ます。さらに、皆様が注目していただくことによって、地域全体で応援・支援する機運が高まるきっかけにもなります。未来のオリンピックやF1レーサーが地元から生まれたらうれしいですね!

最後に… この1年間、私のつたない文章にお付き合いいただきありがとうございました。エンゲージメント(働きがい)を高める弊社の取り組みをご紹介しますが、1つでも皆様の参考になりましたらうれしく思います。また、寄稿の機会を与えていただいたことで、自身の振り返りと整理ができたことに感謝いたします。ありがとうございました!